

若手句会実況中継 令和元年6月14日（金）

指導者…小島 健氏・西山 睦氏 出席者数 16名

高得点句

1位 灰皿を洗ひ桜桃忌の夜勤 よこたまさみち 6点

（受講者4点、小島・西山選）

講評…実際に夜勤をしたことがあるが、時間があるとたばこを吸ったりする。それは、太宰治の雰囲気と合うと思う。「桜桃忌」と水との取り合わせはよくあるが、灰皿との取り合わせは新鮮。太宰の写真にもこういう姿がありそう。（受講者）「夜勤」「灰皿」の組合せは鬱屈していて、太宰治に付過ぎかとも思ったが、「桜桃忌」とすることで光を感じた。今の時代、灰皿を洗う行為もドキツとするが、セピア色の時代を感じる。（西山）「〇〇忌」という忌日俳句は難しい。この句は灰皿を洗うことと夜勤という素材の面白さで採った。また「桜桃忌」を中七下五の句またがりに入れたりリズムがよかった。（小島）

2位 自転車をきゅつととめたり夏の月 吉田 林檎 4点

（受講生4点）

講評…日常の風景と「夏の月」の取り合わせがよい。「きゅつ」というブレーキ音が効いている（受講者）。「月涼し」と思っときゅつと止めた作者の気持ちは分かるが、今まで作られたこととがあるような句と思った。「きゅつと」は面白い。（西山）「夏の月」の季語が動くのではないか。大きな季語をつけたのはいいが、もう少し季語を工夫した方がいいのでは。（小島）

2位 夏の雨郵便物を胸に抱き

倉持 梨恵 4点

(受講者3点、小島選)

講評：沢山の郵便物を胸に大事に抱える感じが出ている。もしくはもらった郵便が期待していたもので、濡らしてはいけないと思う感じががある。(受講者) 濡らしてはいけない郵便を大切に抱いた景が分かる。「夏の雨」で暖かさも出ている。(小島)「郵便物」という言い方が即物的で詩情がない。そこが残念。(西山)

2位 殴ること知らぬ拳や水中花

原 英 4点

(受講者3点、西山選)

講評：「水中花」は偽物を表わしていて、「拳」は殴るためのものとして作者捉えているのが面白いと思う。(受講者) 本当は殴りたいけれど殴れない。水中花も水に捕えられた偽物の花と同じように、ということなのだろう。自分を責めている自虐的な句として採った。新しい挑戦をしている句で良い。(西山) 上五中七「殴ること知らぬ拳や」はとても良いが、季語は変える方がいいのではないだろうか。しかし。いろいろな表現に挑戦している前向きな姿勢は評価したい。(小島)